

文化外交政策を分析してみよう

—文化外交先進国フランスの事例に学ぶ—

以下の説明を読み、クローデルになったつもりで問いに答えてください。

日仏会館は以下の目的を有するものとして構想された。

1. 会館を拠点として、優秀なフランス人専門家に講演や講義をさせる
2. フランス人の若者を奨学生として数年間滞在させ、日本語と日本学（歴史、経済、芸術、文学）を学ばせる

(1924年4月28日付公信第59号より)

Q1 クローデルはなぜ日本でフランス人に講演させようとしたのか？

Q2 クローデルはなぜフランス人の若者に日本語を学ばせようとしたのか？

ミニレクチャに関連するブックガイド

1. 外交と文化外交について

細谷雄一『外交』有斐閣、2007年

：外交に関する基本的な知識を得るのに最適。巻末の読書案内も非常に有益。

渡辺靖『文化と外交』中公新書、2011年

：外交における文化戦略の様々な実例や問題点を紹介する。

2. クローデルについて

ポール・クローデル（内藤高訳）『朝日の中の黒い鳥』講談社学術文庫、1988年

：クローデルが日本文化について論じた文章を集める。日光での講演も収録。

ポール・クローデル（奈良道子訳）『孤独な帝国 日本の1920年代』草思社、1999年

：クローデルがフランス外務省に送信した外交文書を集めたもの。文化外交だけでなく、国際関係や経済通商問題についても興味深い文書が数多く収められている。京都大学での講演も収録。

中條忍監修、大出敦・篠永宣孝・根岸徹郎編『日本におけるポール・クローデルークローデルの滞日年譜ー』クレス出版、2010年

：綿密な資料調査に基づき、日本滞在中のクローデルの行動を一日単位で記録した圧巻の年譜。彼がどこに行き、誰と会い、何を見て、どう感じ考えたかが可能な限り再現されている。

(学谷 亮)